

平成29年度 倉敷教育センター第1回運営委員会 会議録

1 日 時 平成29年7月18日(月) 14:00~16:00

2 場 所 倉敷教育センター研修室

3 出席者

・委員(15名)

委員長 名越 俊明

副委員長 川西 隆

委員 綾部千枝子 中田 和子 西田 恵介
寺岡 直樹 西 千秋(欠席) 溝手 恵里
武井 祐子(欠席) 白神 繁子 石井 二郎
樋口 尚司 松崎 晃 坂田 範子
小原美由紀

・事務局(7名)

市教委指導課 課 長 笠原 和彦

教育センター 館 長 藤井 朗

指導主幹 稲田 修一 中桐 雅子

指導主任 村中 千春 池田 真弓 森廣 隆之

4 説明及び協議

(1) 研修講座の実施状況及び事業計画

○事務局より説明

○協議

委員 昨年度も日程が合えばオープン講座に参加したいと思っていた。今年度は特別支援関係の講演会に参加させていただいた。なかなか学校では呼べないような講師の先生の講演が聴けて勉強になった。現場の先生方に研修を紹介はしているが、学校を空けられない状況。講演の録画や資料をいただけたら、行きたくても行けなかった先生に内容を伝えることができる。

事務局 録画や写真は講師の了承がある。録画は断られることが多い。資料を来ていない方にも配付することは、おそらく講師の了解をいただけたらと思う。以前は録画したものを、教育センターに来て見ていただいた。そういう形ならば対応できる。

委員 素晴らしい講師を呼んで、よい研修をしているので広めてほしい。

委員 先生方は忙しくてなかなか学校を出られないが、本校では特別支援の研修のニーズは高いので、夏休みに一人1回は特別支援関係の研修に行きましょうと呼び掛け、研修案内を回覧し、どの研修に参加するかを決めてもらっている。こうした校内での工夫があればいいと思う。参加した研修の資料を回覧することで話題にできる。い

い研修をしているので、一人でも多くの先生に参加してもらいたい。

事務局 夏休みに校内研修を兼ねて、ほぼ全教員参加で研修に来ていただいている学校もある。

委員 幼稚園でも昨年度、発達障がいの研修になるべく参加しようと無理をしたが、だれかが残らないといけないので、厳しかった。

委員 研修に参加することを勧めているが、規模の小さい学校はなかなか難しい。

委員 校長会でも、教員の力量をつけるために研修に参加する方法を考えている。研修に参加することを勧めていくべきだと思う。

委員 研修参加人数が1名という記述もあったが、もったいない。研修は勤務時間内しか行えないのか。勤務が終わってからの研修や土・日の研修など時間に配慮をいただけないか。

事務局 選択コースで希望したのは1名だが、別の研修と兼ねているので、実際はもっと多い。研修は勤務時間内で行う。土曜日に有志で年3回ほど研修をしている。昨年度は中学校の非常勤講師対象に夜に研修を年3回ほど行った。ニーズを考えていきたい。

委員 中核都市となって市として取り組むことが多くあるのだと思った。教育センターだよりで水谷先生の講演があったことを知った。前もって知っていたら聴きたかった。教育センターだよりに受講者のアンケートが載っているが、アンケートにはどのような傾向があり、どのように生かされているのか。

事務局 アンケートは主に研修づくりの反省材料としている。講師の選定について厳しい御意見もいただく。また、アンケートは講師へのお礼状にも活用している。アンケートの中に、研修を4段階で評価する項目がある。それを集計し、業務の目標数値や反省に生かしている。

委員 予算の関係もあると思うが、来年度の講師は今から考えているのか。

事務局 ニーズを考えながら、また職員も自己研鑽として土・日に講演会などに参加し、自分が聴いて良かったと思う講師を呼んでいる。我々が学び続ける教師でなければならないという思いでいる。

(2) 適応指導

○事務局より説明

○協議

委員 市立定時制高校に、ふれあい教室の生徒の入学が増えてきている。適応指導はじっくりやると効果のある取組だと思う。入学生の6割が不登校経験者だが、うち6割の生徒が回復している。留年せずに卒業する生徒は7割5分で、かなり回復している。説明にもあったが、女子の不登校が増えたと感じる。不登校生徒は繊細だが、特定の能力が高く、学校に来られるようになると集中して勉強できる。

説明の中で、適応指導教室に通えている不登校生徒は全国的にまだ少ないとあったので、適応指導教室と定時制高校との連携を大切にしたい。2月にオープンスクールを予定しているが、学校見学はいつでもできる。実際に授業の様子を見たり、先輩と話したりして、通いたくなる生徒が多い。引きこもり状態から社会に戻すことが大切。夜間定時制高校は登校できるようになると自信がつき、アルバイトもできるようになる。社会復帰ができる。インターシップよりも効果がある。ユニバーサルデザインの授業づくりや環境設定は課題にも力を入れている。高校教員対象の研修は少ないが、特別支援教育の研修は課題なので担当者と一緒に参加したい。

委員 通信制の高校を含め、進学する高校の実態を把握しないまま入学した結果、退学してしまう生徒がいる。ふれあい教室も含めて中学校の進路指導で生徒、保護者に十分な情報提供が必要だと感じている。15歳から39歳の若者の54万人が引きこもりになっている。高校に進学したが、中途退学となり、自信をなくし、アルバイトも続かず、人間関係もうまくいかなくなって引きこもりになるケースが増えているので、手立てが必要だと思う。

委員 倉敷市の新しい取組として7月1日より、居場所づくりを目的に、15歳から39歳の若者の支援として「まなびば ippo」を開設した。倉敷駅前の西ビル5階で月曜日から土曜日に、9時から18時までやっている。カウンセリングで課題を見つけ、学習支援も行う。問い合わせも増えてきている。広く情報提供をしてほしい。

委員 市立定時制高校で「まなびば ippo」の案内を配付していただくことはできるか。

委員 そういう情報はいただきたい。高校でも社会復帰を後押ししていきたい。

委員 ふれあい教室のおかげで救われている生徒が多い。職員の献身的な努力に感謝したい。今後も進路保障を含めて、学校と連携しながら進んでもらいたい。

(3) 教育相談・教育情報の収集、提供

○事務局より説明

○協議

委員 教育相談を公共機関でできるのは、保護者が利用しやすく、大変有効に感じる。今後も電話や面談による教育相談を進めてほしい。

(4) その他

委員 研修がバラエティーに富んでいてよい。市民学習センターでも講演会をしているので、教育センターと共催できるものがあれば行って、倉敷市の社会教育を充実させたい。

委員 教員の研修は手厚い。子育て支援の研修は県でしていただいているが、利用しにくいのが現状である。教育相談は18歳までを対

象に子育て支援センターでも行っている。小さい頃から相談に来ている人がいて、リピーターも多い。月1回は臨床心理士に来ていただいている。教育センターの教育相談を薦めることもある。発達障がい相談として大学の先生に月1回来ていただいているので、紹介している。療育手帳をもった方を対象に、発達を促すおもちゃの貸し出しもしている。研修を受けた保育士がいるので、子育て中の親には積極的に活用していただきたい。

委員
委員

学校と支援センターと教育センターの連携も必要だと感じる。

子育て支援センターでは、昨年から引きこもりの家族の教室を開設し、支援を行っている。就職に失敗して、引きこもりで困っている人が相談に来られている。家族も相談に来られ、家族支援も大切であると感じる。ふれあい教室に通っていたお子さんの保護者も利用されている。継続的な支援が必要ならばふれあい教室とも連携ができると思う。教員研修でゲートキーパーを取り上げていただいた。子どもの自殺が減らない中、国の自殺対策として、子どもたちに向けた対策をとっていかなければならない。SOSを自ら出せる子どもの教育という流れは、新たな自殺総合対策大綱にも盛り込まれていく。教育センターとは引き続き連携していきたい。

委員長 名越 俊明

印

副委員長 川西 隆

印